

## 第2章 特色ある取り組み「地球温暖化」

20年度において、八王子市として先進的な取り組みや、施策として重要な取り組みを特色ある取り組みとして取り上げています。今回は、世界的に緊急の問題となっている「地球温暖化」を取り上げました。

### 1. 地球温暖化の現状

#### (1) 世界規模の環境問題

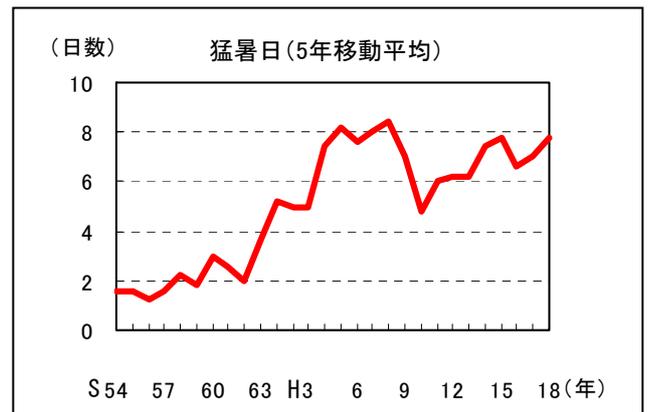
18世紀に始まった産業革命以降の石炭、石油などの使用量の増大に伴い、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をはじめとする温室効果ガスの大気中の濃度が増加を続け、これによって地球の平均気温が上昇していますが、これが地球温暖化とよばれている現象です。

この100年で世界の平均気温は0.74℃上昇し、近年ではその進行が急激になっています。地球温暖化による影響は、集中豪雨の発生、干ばつなど等の異常気象の発生など、すでに世界各地で現れはじめています。さらに、今のままでは、世界の平均気温は1.1℃~6.4℃の幅で上昇すると予測されており、海水面の上昇による陸地の水没や、水不足、それに伴う食料生産の危機、砂漠化の進行などの、より深刻な問題が引き起こされる恐れがあります。

#### (2) 八王子市での地球温暖化の影響

八王子市においても、近年、猛暑日や熱帯夜が増えていますが、これも温暖化が影響していると考えられています。八王子での猛暑日日数は、過去30年間で約4倍に増加し、熱中症による救急搬送患者数は、17年以降の3年で急増しています。

また、これまでに観測されていなかった規模の集中豪雨が、近年観測されるようになってきました。20年8月に起こった記録的な集中豪雨は、市内に深刻な被害をもたらしました。



八王子市の猛暑日の推移 資料：気象庁



八王子市における豪雨被害(20年8月)

このまま地球温暖化が進むと、八王子市にも将来、気候変動による集中豪雨の増大や渇水の頻発、熱中症や熱帯性感染症の発生による健康被害の増加など、より深刻な問題が起こる恐れがあります。

このように、地球温暖化は世界の遠くで起きている出来事ではなく、八王子市に住む私たちにも影響のある深刻な問題です。市民・事業者・市が日々の活動を見つめ直し、一体となって温暖化対策に取り組むことが必要です。

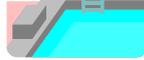
## 2. 脱温暖化社会へ向けての取り組み

### (1) レジ袋有料化実証実験の開始

ごみの発生抑制及びCO<sub>2</sub>削減のため、市民・事業者・市の協定によりレジ袋有料化実証実験を21年1月29日よりスーパーアルプス宇津木台店で開始しました。取り組み当初から「マイバッグ持参率80%」の目標を上回る成果を挙げ、21年3月にはマイバッグ持参率82.8%を達成しました。

市内のレジ袋使用量は年間約**1億6千800万枚**

- ・この量のレジ袋を製造するために、25mプール**12杯**分の石油を使用



**× 12**

- ・この量のレジ袋の製造から焼却までに排出されるCO<sub>2</sub>を吸収するためには、杉の木約**56万本**が必要



**× 560,000**

### (2) 映画「アース」上映会 & 北野大教授「環境講演」の開催

地球の素晴らしさや大切さを学ぶとともに温暖化問題に関心を持っていただくため、7月21日（祝）に市民会館において、地球環境を取り上げた映画「アース」の上映会と北野大教授を招き、環境講演を行いました。

「アース」は、生物にあふれた美しい地球の姿をあらゆる角度から捉えた、“地球のポートレート”とも言うべきドキュメンタリー作品で、地球の素晴らしさを来場者に伝えることができました。

映画上映後は、北野大教授による温暖化に関する「環境講演」が行われ、来場した子どもたちとの軽快なやり取りの中、温暖化問題を熱心に語りかけ、今私たちにできることは何かを考え、実行することの重要性を教えてくださいました。

当日は、夏休みということもあり、親子連れの方々に多く来場していただき、ほぼ満席の1,800名の市民の皆さんに楽しみながら、環境問題を学んでいただきました。



北野大教授の講演に聞き入る来場者

### (3) 「はちおうじ省エネ国」の会員拡大

家庭で電気、ガス等の使用量を記録しながら省エネに取り組む「はちおうじ省エネ国」は、家庭を一つの国と見立て、地球温暖化防止に向けて家庭単位で取り組みを進めていただいています。各家庭は毎月のエネルギー使用量を把握するため、チェックシート（いわゆる「環境家計簿」）に記載します。

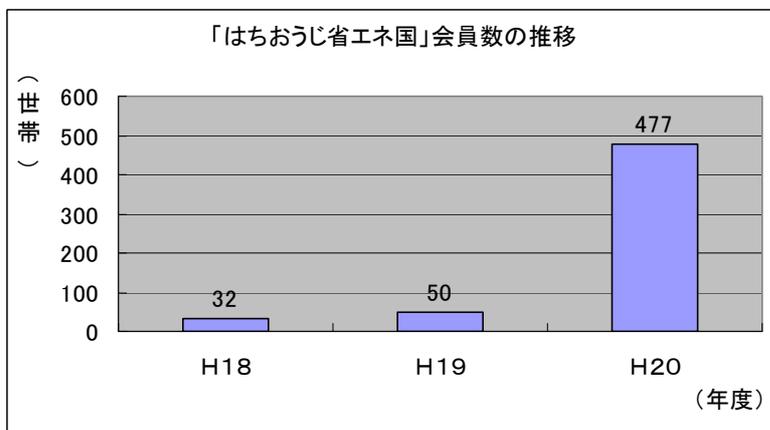
20年度は、この「はちおうじ省エネ国」に取り組んだ家庭には職員自らが手作りした「マイはし袋」をプレゼントしました。



市職員の手作りによるマイはし袋

また、子どもたちにも地球温暖化防止や省エネに興味をもって取り組んでいただけるよう、愛称を市民公募により決定した新しい省エネ国マスコット「えこちゃん」「グリちゃん」も誕生しました。

19年度の「はちおうじ省エネ国」の参加世帯は50世帯でしたが、20年度は、477世帯へと大きく参加世帯を拡大しました。

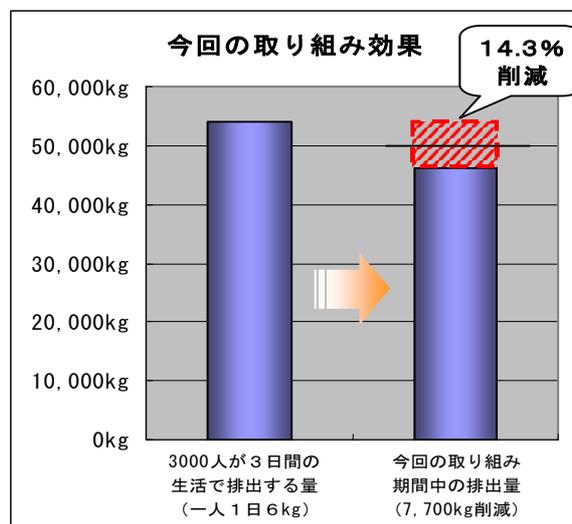


はちおうじ省エネ国マスコット  
『えこちゃん・グリちゃん』

#### (4) 「温暖化防止 チャレンジ9000!」の実施

市では、北海道洞爺湖サミット開催に合わせて、職員自らが日常生活を見直しCO<sub>2</sub>の排出量を削減する取り組み「チャレンジ9000!」を実施しました。この取り組みは、サミットの期間中（7月7日～9日）の3日間に合計9,000kgのCO<sub>2</sub>削減を目標にしたもので、約3千人の市職員のうち、2,264人が参加し、一人ひとりが取り組み結果をチェックシートに記録した結果、7,700kgの削減を達成することができました。

成果	
参加職員数	2,264人
3日間の削減量合計	7,704kg
(一人あたりの削減量)	3.4kg



#### (5) L A S - E 第2ステージの取り組み開始

市では、率先して環境配慮への取り組みを進めていくため、環境マネジメントシステムを導入しています。19年度には、日常事務活動における省エネルギー・省資源に取り組む第1ステージに合格し、さらに20年度からは施設利用者や児童、生徒などの職員以外も対象とした第2ステージ合格に向けた取り組みを開始しました。職員の意識向上で可能な省エネルギー対策として、昼休みの電気の消灯、不使用時のパソコンの電源オフ、不要になった紙の資源化等の徹底を図りました。

これらの取り組みにより、15年度と比べ、市施設からの温室効果ガス排出量、可燃ごみ排出量ともに大幅な削減を実現することができました。（「L A S - E」、詳細は69ページ）



市長への監査



職員への研修

### （6）緑のカーテンの設置

「緑のカーテン」は植物を建築物の外側に生育させることにより、建築物の温度上昇抑制を図る省エネルギー手法のひとつです。20年度は、市民の目に触れる浅川市民センターやあったかホールなどの市施設に設置し、普及啓発を行いました。

「緑のカーテン」は手軽に緑を増やし、癒しを生むだけでなく、夏の日差しを遮り、室内の温度を下げ、冷房のための電気の使用量を減らすことにより、CO<sub>2</sub>排出を削減し、地球温暖化防止にも役立つ効果があります。



浅川市民センターのみどりのカーテン

※ここに掲載した取り組みのほか、第3章・第4節（P27～）にも地球温暖化防止の取り組みを掲載しています。

## 3. これからの地球温暖化対策

市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第20条に基づき、温室効果ガスの発生状況を把握するとともに、脱温暖化社会の構築を目指すため、「地球温暖化対策地域推進計画」を20年度からの2年間に渡り策定しています。

策定にあたっては、市民・事業者の皆さんと市の関連所管課長を委員とした「地球温暖化対策地域推進計画検討会」を立ち上げ、様々な立場から意見を出し合い、実効性のある計画策定に向け、検討を行っています。

この計画の素案では、市の率先した取り組みや「家庭」・「事業所」での取り組みのほか、「交通」、「緑」、「市民・事業者・市の協働」に重点をおいた取り組みなどを掲げています。これに、市民意見を反映させ、有識者による諮問・答申を経て、市民・事業者・市がこれから地球温暖化を防止するために「何をすべきか」を示していきます。